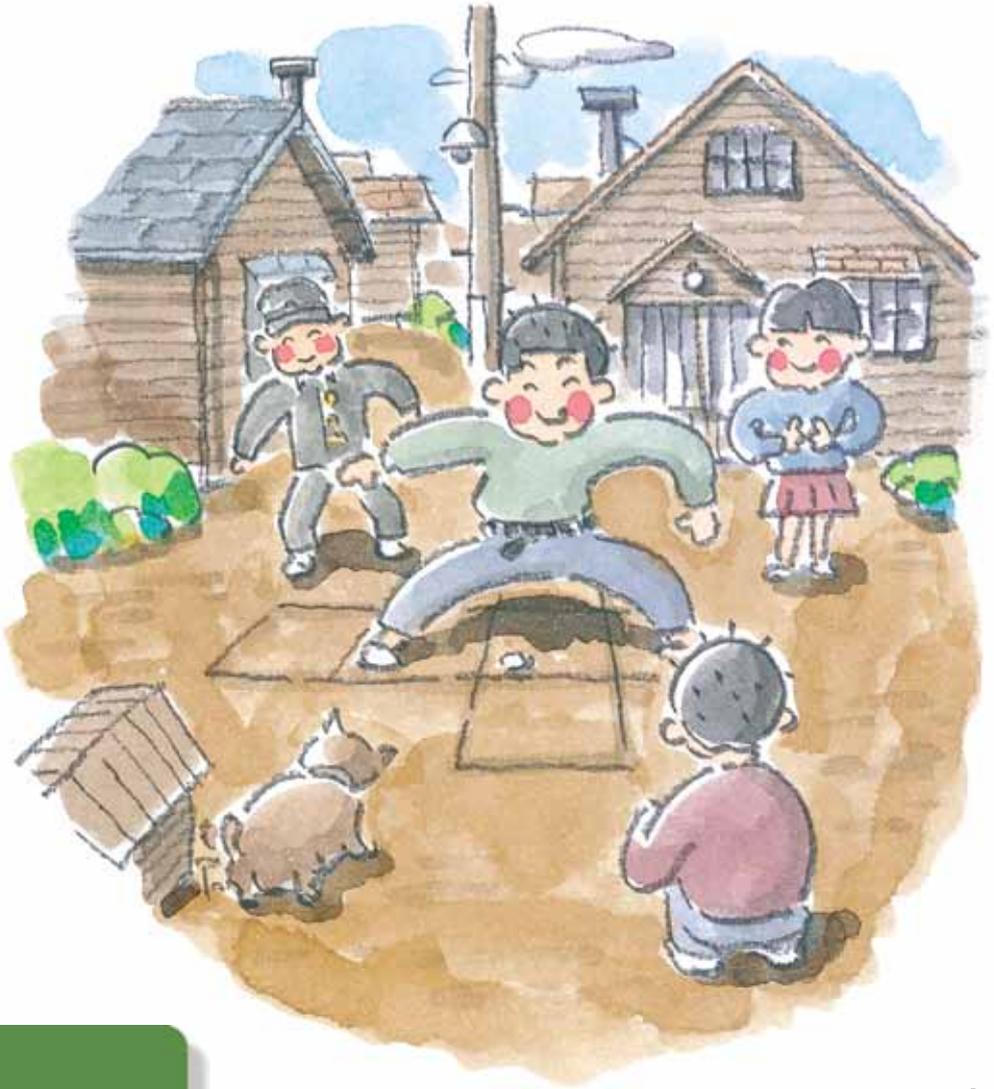


語り継ぐ、明日へ。



歴史はいつも未来へのみちしるべです
世の中の進むスピードと自分の生きていくペースが
少し合わなくなってきたなと感じ始めたら
いつか来た道まで戻ってみましょう

おーい、
みんなな出て来て、よ

長かった雪の季節が終わり、春の日差しを楽しみながら家の近くをのんびり歩いています。アスファルトの上にチョークで描かれた子供たちの絵を見つけたりすると、自分のそのころが思い出されます。舗装なんてされていませんでしたから、土に釘でうねうねと線を引いてケンパーやニクダン。ゴム跳び、ビー玉、パッチン、コマなんかもやりましたね。外で遊んで遊んでいたか聞けば、だいたい年がわかります。子供たちが外で遊ばなくなった原因を考えてみますと、まずは車が増えたことでしょうか。続いて学習塾、ファミコン、マンション、少子化などが思い当たります。地域だけでなく学級まで崩壊しているといえますから、子供たちの遊ぶ姿は、時代の移り変わりを如実に反映しているといえます。

ひと街ごと No.23

- ・時の街角／旧青山家漁家住宅 2
- ・マチの博物館／ダイマツおおたき 3
- ・あるばむレトロポリス／狸小路 4
- ・川筋を行く／石狩川④ 5
- ・来た道行く道／千葉忠紋店 6
- ・道具で道草30年 7
- ・時計のある風景 8

二〇〇八年 春(第四回発行)

発行：(社)印刷紙工

札幌市中央区南十五条西十八丁目
TEL(011)561-1159

編集：ひと街ごと刊行会

札幌市中央区北一条西十七丁目 北海道不動産会館四階
(向)編集工房海内 TEL(011)633-1651



時の街角

北海道開拓の村から

春の限られた期間だけ口にできる生ニシン数の子が入って丸々と太った姿に幻の魚の復活を願わずにはいられませんその大漁時代をしのぶのがニシン番屋沿岸部にさえ数少なくなった貴重な遺構です

ニシンの黄金時代、贅を尽くして

旧青山家漁家住宅

大正八年(一九一九)建築

ニシン御殿とかニシン大尽とかいう言葉が残るくらいですから、綱元は相当の金持ちだったことでしょう。いったいどれだけ水揚げがあつたも

のか。

記録によりますと、北海道全体の漁獲高は明治三十年(一八九七)の九七万トンを超え、明治から昭和初めにかけては四〇万トン〜七〇万トン。これでは想像がつきにくいので、一昨年のホタテの漁獲高が三九万トン、同じくサケが一八万トンといえば、その黄金時代がわかるでしょう。そんな漁師の親方だからこそ、この豪華な造りです。

明治二年(一八六九)、場所請負制度の廃止に伴い、ニシン漁場が民間に分け与えられました。山形県から来た青山家の初代留吉が、小樽市祝津で建網漁場を開いたのは明治九年のこと。以来、最盛期には小樽沿岸

に十六カ統(二カ統は約三十人)の権利を有していました。

誰もが目を見張る母屋は、火災で消失して大正八年(一九一九)に再建されたものです。中央の土間をはさんで右が親方の住まい。左が五十人ほどの漁

夫が寝泊りする生活の場に。玄関も別になった親方家族の住まいは、茶の間や座敷がある豊かな暮らし。一方、漁夫が寝るのは二階に回して造られた寝台。一畳が一人分と分けられています。

天井部分に張り巡らされた長短の梁に圧倒されて、見落としがちなのが大黒柱のないことです。木造二部二階建て百二十坪もあるのですから、空間を広く使うと同時に、頑丈な構造とするため洋風建築の技術を使用したのでしょう。

母屋のほか、明治二十年代に建てられたという文庫蔵、石倉、板倉、米倉は当時のままです。あれからニシンはどこへ……という歌の文句が



ありますが、関係者の努力が実って徐々に復活のニュースも伝えられています。こんな御殿は建たないまでも、ごく普通に食卓に上る魚になってほしいものです。

母屋の隣りに文庫倉、石倉、板倉といずれもお金をかけた瓦ぶき青山家は最盛期には祝津(小樽市)に大小100の建物を所有していた



母屋の漁夫が寝泊りする板の間は天井部分の梁の組み方に圧倒される大黒柱のない西洋式は空間が広く見える

ボタン&裏地の洋裁専門店
ダイマツおたき

札幌市中央区南一条西二丁目
電話 〇二六二一九三三一

一個なくしたときの悔しい経験はどなたもお持ち
色や形で印象ががらりと変わることもあるボタンですが
洋裁をする人が減り、既製品の全盛でどこへ行ったか専門店
頑固に「私だけのボタン」にこだわる人はぜひここへ

「おそらく何千個とか何万個とかいう
数ではないでしょうか」。様々な洋裁付
属品が雑然と並ぶ店内の、ボタンの入っ
た引き出しが天井近くまで積み上げられ
ているコーナーでこう語るのは、店長の
大滝深雪さん（四）です。

札幌市中心部にあった洋裁用品の店
「ダイマツ」で修行した父が、のれん分
けで独立したのが昭和四十一年（一九六
六）といえますから、すでに創業四十二
年の専門店。札幌大病院前という立地に
首を傾げていたら、大滝店長が「ドレメ
に近いということ」と。（北海道ドレ

「たかがボタン、
されどボタン」
一個五円から――。

スメーカー女学院。中央区南四西一六
その先見どおり、ボタンの販売だけで
店が成り立っていた時期もありましたが
様変わり。洋裁をたしなむ人がめっきり
減って、今や既製の時代です。扱う商
品も、裏地や糸、ファスナー、接着芯の



デザイン、色、サイズ―各種揃ったボタンが天井まで引き出しの中

ファスナーや糸など洋裁付属品なら何でもあり！



2代目店主の大滝深雪さん（正面）と
2人の女性スタッフがきめ細かいサービスを

ほか洋裁全般に拡張しました。
とはいうものの「たかがボタン、され
どボタン」。洋裁のプロはもちろん、ク
リーニング屋さん、直し屋さん（リフォー
ム）、うわさを聞きつけては店を訪ねて
くるお客さんなど頻繁です。中には新品
の既製服を持ってきて、こちらで気に
入ったボタンとそっくり取り替える人も
いるとか。高いものは一個数千円もしま
すからかなりの買物ですが、「お客さん
の服に合うボタンを探して差し上げて、
後からとても気に入ったと言われるとう
れいですね」（大滝店長）。

そして札幌ではこちらでしかやってい
ないのではというのが、ボタンホルの
加工（穴かがり）です。二階の作業場に
四百種のかがり糸を常備して、二台のド
イツ製専用ミシンが三十年以上も軽快に



ボタンとは切っても切り離せない糸。こちらも色とりどり



動いています。
場所柄、医大病院に来たついでに店を
のぞいていく年配の女性客も多く、きめ
の細かい品揃えと親身な対応です。ボタ
ン一個五円からなんて、これだけでも気
軽に入れますよ。



加工で唯一行っているのが穴かがり
年代もののドイツ製の2台のミシンで



昭和36年(1961) 12月
狸小路3丁目の歳末大売出しの賑わい
田舎から出てきた人も多かったことだろう



あるばお レトロポリス

狸小路

近ごろ、狸小路を歩きましたか。ここで何年買ひ物をしていませんか。「うーん、そういえば」と思い当たる人ばかりでしょう。何か復活の良い手立てはないのでしょうか。

軸が東西ゆえの盛衰 復活の手立てあるか

多くのファンに惜しまれながら狸小路の老舗そば店が先ごろ、百十六年続いたのれんを下ろしました。狸小路の始まりは明治六年(一八七三)ころ、現在の狸小路二丁目「東座」という芝居小屋が開かれて以来といえますから、ほぼ同時代を歩んできたこととなります。

商店街の盛衰には、世の中の様々な事情が大きく関わっていますが、終戦後、札幌市への人口集中で繁栄の一途にあった狸小路にとって、最も大きな転機は地下鉄の開通と札幌地下街ができたことでしょう。人の

流れが地下へ、札幌駅前ゾーンへとシフトしました。

続いて訪れたのが、住宅地の外延化による本州資本大型店の郊外立地。都心まで出てこなくても十分にモノを調達できるようになりました。これは狸小路に限らず昔からの地域商店街も同様で、いわゆるシャッター通りが増えていきました。

起死回生の一手、昭和五十七年の開閉式アーケード建設も今ではかすんでしまっています。日本で最初に商店街を屋根付きにしたのは、北九州小倉北区の魚町銀天街(昭二六)ですが、こちらは今でも人通りの絶えることはありません。その大きな原因は、魚町はJR駅近くから南北に延びており、商店街から枝分かれするように大手デパートなど他の商業施設に行けることでしょう。

狸小路の場合、軸は東西にあり、ここを通ってどこかに行く流れになっっていないだけに、ゾーン対ゾーンの魅力では、新しいところは常に強敵です。

先の魚町では、丁目でそれぞれオフィシャルホームページも開設して、独自のイベントなども行っているようです。何年前か前、四国のある商店街では、ミステリーをFMなどで一定期間流して、犯人はその商店街にくればわかるというような催しをやっていたことがありました。この伝で若い人向けに流行のケータイミステリーはどうでしょうか。



開閉式アーケードに狸大明神通りはきれいになったが御利益のほどはなかなか

上/昭和27年(1952)6月の5丁目
下/札幌オリンピックのときの3丁目
(上3枚は札幌市写真ライブラリー提供)



石狩川 四

川筋を行く

人と川の
様々な
かわわりを
たずねて

は道外
からの人や、

時により大型バスの
団体もあるとのこと。
また同渡船を守る会の
会員が現在八十人。ファン
は「確実に増えている」(同課)

カー、札幌へ通勤や通学
に利用する人々。対岸に渡ってす
ぐに戻ってくる観光客―最盛期
には一日四、五千人、車二千台を
運んだ、実にのんびりした時代で
した。

ゼルエンジンに。同
四十六年の廃止まで、船頭が
数代にわたって変わってもこの名
称で続きました。

廃止の前年に乗ったことがある
という『えへつ百話』(ユオベツ
選書)の著者、藤倉徹夫氏は「片
道二十円。コーヒー一杯八十円の
頃」だったと記しています。

廃止の原因はモーターゼーショ
ンの発達もありますが、大きいのは
治水工事による対岸の部落の移
転。平成十七年、少し上流部に美
原大橋が完成したことは、渡しの
場所が昔と変わらず交通の要所で
あることを示しています。

ちなみに石狩渡船も重兵衛渡し
も、冬の間は川が結氷して運行休
止。人々は氷橋を歩いて渡りまし
た。その川の水が汚れて凍らなく
なったのが昭和三十年代後半から
四十年代にかけて。時代がスロー
ではなくなっていくたのです。

唯一残る「美浦渡船」
夏場の土曜休日運行

アイヌの人々の丸木舟に始まって
和人が物資や人を送り込んだ汽船に至るまで
北海道開拓と船とは深い関わりがありました
中でも近年まで都市近郊に残っていた渡し船には
その存廃にいつも賛否両論が行き交いました

出たの
ですが、地
域の貴重な文化遺
産であることから存続を
望む声が高まり、六月中旬
から九月上旬までの土日・祝祭日
だけ、一日三便運行しています。
渡し守は四代目の国田忠英さんで
す。

浦臼町産業建設課の話によりま
すと昨年の乗船者は三百人。中に
道内唯一の美浦渡船(浦臼町産業建設課提供)

財団法人石狩川振興
財団発行の『石狩川舟運史』(平成
一五)によりますと、昭和十八年
(一九四三)の北海道全域の渡船
場数は百四十五カ所。それが同
四十八年には十六カ所に減り、現
在は石狩川に二カ所を残すだけと
なりました。

その最後の一カ所が美唄市
中村地区と浦臼町晩生内地区
を結ぶ美浦渡船です。明治中
期から一帯の開拓に当たった
北越殖民社の私設渡船「関谷
渡船」として開設されたのが
大正五年(一九一六)。昭和三十
五年からは美唄市と浦臼町
の共同運行となり、名称も美
浦渡船と変わりました。

渡船場近くで建設中の美浦
大橋の完成(平成二二)が迫
ってきて、一度は休止の話も



守る会会員募集の案内

車も一日二千台運んだ 石狩渡船

渡船といえども借しまれて
廃止となるのが常ですが、ここほ
ど借しまれたところはなかったと
いうのが、石狩川河口の石狩渡船
でしょう。

石狩町(現・石狩市)本町と八幡
町を結んだもので、遠く江戸時代
からの記録があります。私設渡船
となったのは明治五年(一八七三)。
その後、町営有料船、国道昇格
(三三二号)による町委託、フェリ
ー就航といった変遷がありました。
渡船場に続く国道に長い列を作
って乗船を待つ車。自転車やリヤ



昭和35年頃の冬の石狩渡船場
(「石狩市21世紀に伝える写真集」から複写)

渡船場から少し上流に石狩河口
橋が完成して、渡船のファイナル
は昭和五十三年三月三十一日。札
幌などからもたくさんファンが
駆けつけました。釣り情報欄には
今でも旧渡船場と表記される一帯
ぶらりと歩けばかつての船着場跡
を見つけることができます。

片道20円、いま美原大橋 重兵衛渡し

国道二二号を江別市街から東方
向に抜けて、製紙会社を左にしな
がら石狩川に沿って曲がる辺り。
ここから発着していた重兵衛渡し
を覚えてる人もいます。

明治二十七年(一八九四)、武
田重兵衛という人が始めたもので、
昭和二十八年に手漕ぎからデー



江別の重兵衛渡し(昭和41年。札幌市南区鈴木弘氏提供)



道内唯一の美浦渡船(浦臼町産業建設課提供)

来た道、 行く道。

様々な先達がいるからこそ
二十一世紀があるんだよ——
スローコミュニケーションを求めて。

本欄への自薦他薦を
お待ちしております。

和服を着る人がめっきり少なくなつた近年、関連の伝統技術の後継者も次第に

紋章上絵の作業は、まず家紋の型彫りから始まります。日本に伝わる紋章は六

耳にします。紋付に手描きで家紋を入れる上絵師もその一つ。印刷紋の増加にも押され

て、職人の存在が忘れられがちです。小樽市の千葉豪さん

(七五)は「娘三人で後継者はいない」と言いながらも、上絵の技術を残すことに一生懸命です。

千種。お宅の家紋はと聞かれてすぐに答えられる人、うる覚えの人、あるいは新しいのをつくってほしいという人それぞれです。先代のときは洪紙に、豪さんは自分で見つけたホワイパーという紙にカ

千葉忠紋店の創業は大正十一年(一九二二)。仙台市の紋章店で修行を積んだ父の忠さんが、当時景気の良かった小樽市に新天地を求めての開業でした。豪さんは高校を出てすぐ弟子入り。昭和三十年頃から店を手伝うようになりました。

直徑二(三)センチ。反物の石持(紋)を入れる白い円形部分に描き入れる場合と、無地のものに色を入れて行く場合とで、型



円を描くときに使う「分まわし」

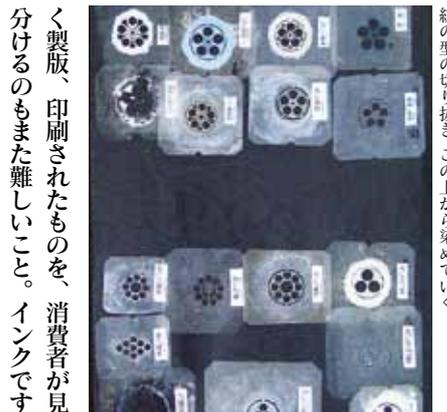


千葉忠紋店
小樽市花園3-6-6
TEL. (0134) 22-9394

の切り抜く部分が逆になります。いずれの場合も型どおりに刷毛で染めた後、細い筆ですべ(術)を入れるのがまた熟練の要る仕事。残った線を消す、あるいは必要な線を入れる——根を詰めた修正作業は、簡単な絵柄のものでも一



代表的な日本の家紋



紋の型の切り抜き。この上から染めていく

手描きの家紋は「貴重な文化遺産」技術残すことに腐心

千葉 豪さん——小樽市・千葉忠紋店



つ仕上げるのに一時間ばかりです。ところで紋に付き物の円。この線はどうやって描くのか、フリーハン

学が主催する体験学習の講師として、小中学生に上絵の方法を教えたり、市内の和服関連の技術者を集めて小樽染紋塾を主宰したりしています。「紋章は日本とヨーロッパにしかないもの。貴重な文化遺産なのです」。千葉さんの熱い思いです。



工房は子供の勉強部屋ほどの広さ。下は入念に術(すべ)を入れていく千葉さん



ドではまず無理です。やはりその道の人には考えるもの。コンパスに筆先を取り付ければよいではありませんか。この木製の「分まわし」という道具が、型を描いたり染めたりするときに活躍しています。こんな苦労があるからこそ「手描きの紋は生きている。印刷の紋は死んでいます」と千葉さん。それは、眼を入れなければならぬ馬や蝶などの紋を考えればわかることです。しかし家紋帳から難な

道具で

道草30年

たまたま寄つてみた道北の鍾乳洞の前の土産物店
主の老婦人が持つていってこれと云う一片の鍾乳石には
ここを発見したとき夫との美しい思い出が光っていた

坂一敬

レトロスペース坂会館 館長（坂栄養食品 開発部長）

ちよつと息が抜きたくなつて北の方に向いてみた。旭川を越えてしばらく行くと、鍾乳洞の看板が目に入った。北海道に鍾乳洞は珍しいので、寄つてみようかと思ひ、しばらく行くと小山にぶつかり、そこが鍾乳洞の入口だった。入場料を払い中に入つてみた。

岩手の入水鍾乳洞や奥多摩の日原鍾乳洞と違い、とてもこじんまりとした鍾乳洞。龍が住んでいたという伝説があると説明の看板に書いてあったが、ちよつと狭くて住みづらかつたと思われる。帰りにお土産物屋さんが並んでいたで、手前の一軒に入つてみた。お湯を注ぐと文字が浮き出てくる湯呑みを二個買った。小柄だけと言葉遣いが何となく粹でモダンなおばあちゃんが丁寧に対応してくれた。

翌年また近くまで行つたので、例のおばあちゃんのお店に寄つてみた。おばあちゃんはずかしく私のことを覚えており、「鍾乳洞は見た？」と聞くので、見ないでこのまま行くつもりと答えると、無料の入場券を私にくれて、せつかく来たのだから入つてきたらと言ふ。これが私とおばあちゃんとの付き合いの始まりである。

ある時、彼女が半生を話してくれた。それによると、あの鍾乳洞のある山はもともと亡くなつた彼女のダンナさんの持ち山で、彼はそこでセメントの材料の石灰を掘つていたのだと言ふ。そしてまつたものの偶然に鍾乳洞に行き当たつたのだと言ふ。ダンナに呼ばれて初めて見た洞の美しさはこの世のものではなく、声も

一片の鍾乳石に、 老夫婦の 美しいロマン。

言葉も出なかつたと言ふ。それはそうだろう。多くの観光客が出入りして汚した今でもそれなりに綺麗なのだから、人の目に初めて触れた時の美しさは想像できる。
彼「こんな美しい洞は私すべきものではないと思う。今後の生活もあることだから自分一人では決められないが、もしおまえがいいと言つてくれるなら町に山ごと寄付しよう」と

思うのだが。

若き日のおばあちゃんは即座に「いいよ」と返事をしたと言ふ。その時、町との約束で、二人は生活の糧を失うわけだから土産物屋をここで独占的に開く権利を保証されたのだと言ふ。

私「普通の人ならどんなに美しい鍾乳洞にぶつかつても黙つてつぶし



夫が初めて鍾乳洞を見つけたときに持ってきたという鍾乳石

てしまう。後で文句を言われても非難されても、そんなに価値のあるものとは思ひもよらなかつた。学者でもない一介の山師にそんなこと言われても…で通してしまふ。妻との生活を守つて何が悪いのだ。私たちもカスミを食べて生きていくわけにはいかないのだからと。ダンナさんもおばあちゃんもきつとすごいロマンチストだったのだ。そして山を寄付

した後、行政側は約束を守らなかつたんだね。だつて同じようなお店が何軒も並んでいる」。

おばあちゃんは「話を聞いてくれてありがとう。本当にありがとう」と言つて、奥から一枚の鍾乳石を持ってきて私にくれると言ふ。この石は初めて鍾乳洞を見たとき、そして山がまだダンナさんの持ち山だったとき採つてきた一枚だと言ふ。

私「そんな大切なものをもらえない。おばあちゃん、いいんだよ。近々私もあなたに会いに行く。そしてら言つさ。私たちのことをわかつてくれた人にあるの石はあげて来たと言ふから」。私「ありがとう。それならもう行つて行くね。町にもまだ当時のいきさつを知つている人はいると思う。ダンナさんの看板くらい建ててもバチはあたらないと言つてやるべきだ」。

去りぎわ、おばあちゃんはお店を出てずつと手を振つて私を見送つてくれた。



鍾乳石をくれたおばあさんと筆者40代のころ

その後訪れた時には、シーズン中にもかかわらず彼女の店はシャツターが下りていた。隣の店の人に聞くと、今年になつてから時々開くとはいあるけれど、ここしばらく閉じたままのこと。洞の入口まで行くと、彼女のダンナさんのことを書いた金属のプレートが建てられていた。「やつたな！ おばあちゃん！」
もうここに来ることもあるまい。さようなら、当麻鍾乳洞。

五年という瞬きの間に……。

何かに追い立てられるように過ぎていく毎日。いつもそこにある時計に、足を止めることを忘れていませんか。



百八十五万人だった人口が百八十九万人に増えました。オープンが直接の原因ではないにしても、この五年間でさらに一極集中が進み、道民の三・三人に一人が札幌市民という時代です。駅周辺の開発に弾みをつけ、大通り地区のみならず小樽市や苫小

牧市など近隣都市にまで商圏の変化をもたらして、次なるエポックは北海道新幹線の乗り入れでしょうか。その北都の貌・JR札幌駅で「星の時計」も同じ時間を刻んできました。星にはほんの瞬きにしか過ぎないのでしたが、街の変化は足早です。



Now Printing

●本づくりのパートナー
(社)印刷紙工

居間で本づくりセミナーを
自分史など本をつくりたいと考えている人のために、出前の本づくりセミナーを承ります。三人以上のお集まりで会場をご用意いただけます。日時をご相談の上、印刷担当者や編集者がお伺いいたします。ご自宅の居間でも結構です。もちろん無料です。
記念誌は未来への道しるべ
企業や団体の十年を一区切りとする創立周年、二十周年、三十周年と歴史を重ねていく度にその歩



質問箱

本づくりの「?」にお答えします。お気軽に質問をお寄せください。



自分史というには大げさですが、原稿も写真もどうやらそろえることはできました。これを何とか安く上げる方法はないものかと考えています。よい方法があったら教えてください。

本の印刷費を決める要素

A まず一般的な値段からお知らせしますと、B6判で本文が96ページ、並製本で100部つくるならおおよそ33万円。同じ仕様でA5なら35万円というところ。並製本ではなく上製本ですとどちらも6万円程度のプラス。この例の中に本の印刷費を決める

4つの要素が含まれています。

まずは判形。大きくなれば高くなり、小さければ安くなります。一般的にはB6判、A5判、四六判が多く使われます。次はページ数。ページが増えれば紙が多く要りますし、印刷機の稼働も増えますので、それだけ費用がかかることになります。

3番目は製本の方法です。並製本とは軟らかい紙の表紙のこと。上製本とは布クロスや紙張りの硬い表紙のことです。そしてこれら3つの要素に係わってくるのが部数。部数が多ければ当然かかるお金が増えます。

話をスムーズに進めるには、自分の作りたい体裁の本を例示しながら、予算に合わせてページ数と部数を調整していくのがベターでしょう。

リライト、編集等のご要望があれば、別途費用をみていただくことになります。

みを記録しておかなければ資料が散逸、功績のあった人も物故していきます。未来への道しるべ、歴史はきちんとまとめておきたいものです。企画、編集、印刷、どの段階からでもご用命を承っております。
小紙を無料で差し上げています
慌しい時の流れに、ほっと一息つける話題を提供していきたいと願っている小紙。ご希望の方には無料で定期的にお送りしております。印刷紙工までお申し込みください。